

いわかみ じゅんいち
岩上 順一山口市
(1907～1958)

山口市小郡出身。幼い頃から大の読書家で、早稲田大学在学中マルクス主義文献に深く傾倒し、ロシアの文学批評家ゴーリキー等の影響を受け、文芸評論の世帯へと入っていく。昭和十三年、『中央公論』に「政治と文学」を発表して話題を呼び、次々と文学論・作品論を展開していった。戦時中は非合法活動で検挙されたが、思想を曲げなかった。昭和十年代から二十年代にかけて、マルクス主義文芸批評を精力的に展開した評論家としての功績は大きい。
(野村忠登)

【主な著作】

『文学の饗宴』(大観堂、昭和16年)

『横光利一』(二笠書房、昭和16年)

『「戦争と平和」論』(河出書房、昭和21年)